

岐阜県で発見されたアライグマに襲われたと考えられるニホンイシガメ

田上正隆¹・高木雅紀²・楠田哲士³

¹ 501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町1453番地河川環境楽園内 世界淡水魚園水族館アクア・トぎふ

² 500-8889 岐阜県岐阜市大縄場3-1 岐阜県立岐阜高等学校

³ 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室

An injured *Mauremys japonica* suspected to have been attacked by *Procyon lotor* in Gifu Prefecture Japan.

By Masataka TAGAMI¹, Masaki TAKAGI², Satoshi KUSUDA³

¹ Gifu World Freshwater Aquarium, 1453 Kawashimakasadamachi, Kakamigahara Gifu 501-6021, Japan.

² Gifu Senior High School, 3-1 Onawaba, Gifu 500-8889, Japan.

³ Laboratory of Animal Reproduction, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan.

岐阜県内においてアライグマ(*Procyon lotor*)に襲われたと考えられるニホンイシガメ(*Mauremys japonica*)を2例発見したので報告する。

事例1

2018年5月17日13時頃、岐阜県大垣市内の河川において魚類相調査を実施していた際、水深10cm程度の川岸近くでニホンイシガメを発見した。この個体は筆者(田上)が近づいてもほとんど動くことなく水底でじっとしていたため、素手により捕獲を行った。個体を観察したところ両前肢を欠損しており、右前肢は出血していないものの傷はふさがっていない状態であり、左前肢は骨が露出している状態であった(図1)。個体は成体のメスであり、甲羅には外傷等は認められなかった。



図1. 事例1の個体における両前肢の欠損部(2018年5月17日撮影)

事例2

2018年12月30日8時30分頃、岐阜県関市内のコンクリート製用水路において、水路清掃中に両前肢と尾を欠損したニホンイシガメが発見された。発見時、水路内に水は流れておらず、この個体は草などが溜まった中に隠れていた。その後、発見者自宅で保管され、2019年1月12日に筆者(田上)が勤める水族館へ持ち込まれた。水族館搬入時に計測および写真撮影を実施したところ、背甲長17.0cm、体重603g、成体のメス個体であった。両前肢(図2)ならびに尾の欠損部(図3)の傷口はすでに塞がっており、欠損時からかなり時間がたっていると考えられた。



図2. 事例2の個体における両前肢の欠損部
(2019年1月12日撮影)



図3. 事例2の個体における欠損した尾部
(2019年1月12日撮影)

考察

これらの個体の傷は、アライグマによる食害と考えられている小菅(2011)や小賀野他(2015)、鈴木他(2015)、小菅・小林(2015)で報告された事例と酷似している。また岐阜県内でのアライグマの侵入状況は、1980年代には可児市および周辺自治体で確認されていたが(安藤・梶浦, 1985; 梶浦・安藤, 1986)、近年の調査においては美濃地方全域に生息しており、さらに河川上流部へ分布を広げつつある(岐阜県, 2011)。また、平成28年度特定外来生物生息分布調査結果においても、事例2の個体が発見された場所付近でアライグマの分布が確認されている(岐阜県, 2016)。そのため、今回発見した個体もアライグマによって襲われた可能性が高いと考えられる。

岐阜県内の野外においてアライグマによるニホンシガメの食害について正式な記録は残されていない。しかし、筆者(高木)は2008年頃に、岐阜県哺乳類調査研究会の大野哲也氏(大野動物病院獣医師)から、アライグマの糞から出てきた長さ30mmほどの皮膚片を見せていただいたことがあった。当時、大野氏は哺乳類の体毛の顕微鏡写真から種を同定する研究を進めており、糞に付着する排便主の体毛の観察結果から、アライグマであると判断されていた。皮膚片には鱗と爪が残っており、明らかにカメ類の前肢であると判断できた。残念ながら、標本の行方は不明であり、発見者の大野氏も亡くなっていることから、種や発見日時や場所等は不明であるが、これもアライグマの影響を示唆するものであった。さらに、筆者らは岐阜市でクサガメとニホンシガメ、岐阜県揖斐郡大野町ではクサガメにおいて四肢を欠損している個体を発見しており、アライグマによる被害はかなりの数に上っていると推察される。岐阜県内におけるニホンシガメの生息場所は開発等により減少しつつあり、県レッドデータブックにおいても準絶滅危惧に指定されている(矢部, 2010)。アライグマによる被害は県内のニホンシガメ個体群存続に悪影響をもたらすものとして、今後も注視していく必要がある。

今回の報告をまとめるにあたり、情報および個体を提供していただいた市原英知様に感謝申し上げます。

引用文献

安藤志郎・梶浦敬一. 1985. 岐阜県におけるアライグマの生息状況. 岐阜県博物館調査研究報告6:23-30
岐阜県. 2011. 平成23年度外来生物生息分布調査結果. URL:

<https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/gairai-bunnpu23.data/kekka.pdf>
(2018年12月14日閲覧)

- 岐阜県 . 2016 . 平成 28 年度 外来生物生息分布調査結果 . URL :
https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/h28gairaiseibututyousa.data/H28_gairaiseibututyousakekka.pdf (2019年1月14日閲覧)
- 梶浦敬一・安藤志郎. 1986. 岐阜県におけるアライグマの生息状況その2ーアライグマの夜間活動記録一. 岐阜県博物館調査研究報告7:57-59
- 小菅康弘. 2011. 千葉県における淡水ガメの大量死:捕食者はアライグマ?. 亀楽1:10-11
- 小菅康弘・小林頼太. 2015. アライグマによる淡水カメ類の危機. 爬虫両棲類学会報2015(2):167-173
- 小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫. 2015. 房総半島の溜池に生息するニホンイシガメの危機的状況. 爬虫両棲類学会報2015(1):1-8
- 鈴木大・會津光博・菊水研二. 2015. アライグマの食害を受けたと考えられるニホンイシガメ. 爬虫両棲類学会報2015(1):15-17
- 矢部隆. 2010. ニホンイシガメ. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)改訂版ー岐阜県レッドデータブック(動物編)改訂版-. URL:<https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/nihon-ishigame.html>. (2018年12月18日閲覧)